



医療者に伝えたいこと

DSDs（性分化疾患）の取り扱いについて

ネクスDSDジャパン ヨ ヘイル

ネクスDSDジャパン nexdsd.com/



目的

- 性分化疾患についての**正確な情報**の提供
(⇒オランダSCP報告書)
(cf.「性の多様性」⇔**HIVの正確な情報**)
- 欧米の性分化疾患各種患者会の情報を提供することで、日本の性分化疾患の各体の状態に応じた患者会の設立・活動を促す
- 子育て上の情報（不正確な情報ばかりで、正確な情報がほとんど無い状況）
- 患者・家族の方をエンパワメントできる当事者・家族の皆さんの体験談「あなたはひとりじゃない」

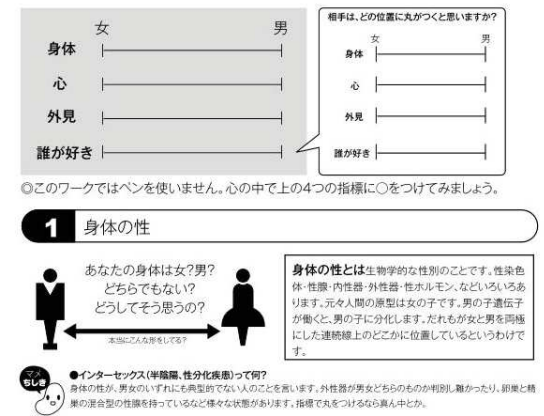


当事者・家族のサポートグループの立場からチーム医療を考える～欧米の例を中心に

[演者] ヨ ヘイル:1

1:AIS-DSDサポートグループ

社会やLGBTの皆さんの「性分化疾患（インターセックス）」に対する誤解



- インターセックス（性分化疾患）は「男でも女でもない第3の性」だ。
- 男女両方の特徴を持っている。男女判別できない。
- 男女どちらでもない・どちらでもある
- インターセックス（性分化疾患）の人は途中で自然に性転換する。
- インターセックス（性分化疾患）の人は、男性か女性しか認められない社会なので、自分のことを秘密にせざるを得ない。
- インターセックス（性分化疾患）の人は男女に分けられることに反対している。

実は、患者家族にとって
大変危険な誤解です。

「男らしさ」・「女らしさ」とは？

男性

- ・強い
- ・しっかりしている
- ・泣かない
- ・父性
- ・青・黒
- ・体育会系
- ・電車・ロボット
- ・仮面ライダー



女性

- ・優しい
- ・おしとやか
- ・よく泣く
- ・母性
- ・ピンク・赤
- ・文化系
- ・人形遊び
- ・プリキュア



⇒男性・女性に対する「社会的規範」

「男らしさ」・「女らしさ」とは？

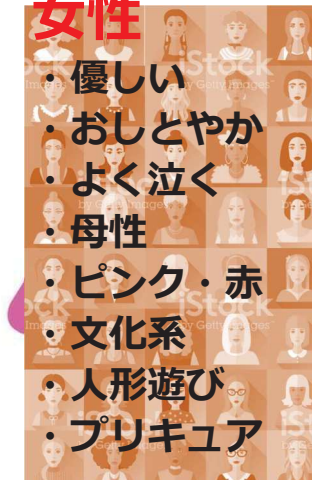
男性

- ・強い
- ・しっかりしている
- ・泣かない
- ・父性
- ・青・黒
- ・体育会系
- ・電車・ロボット
- ・仮面ライダー



女性

- ・優しい
- ・おしとやか
- ・よく泣く
- ・母性
- ・ピンク・赤
- ・文化系
- ・人形遊び
- ・プリキュア



⇒男性・女性に対する「社会的規範」

では、体の性のつくりは？

男性

- ・染色体=XY
- ・内性器=精巣
- ・外性器=ペニス
- ・長さ=2.5cm以上
- ・精子=有
- ・ホルモン=男性ホルモン
- ・体つき=がっちり
- ・声=低い
- ・胸=出ていない
- ・子どもを産ませられる

女性

- ・染色体=XX
- ・内性器=卵巣・子宮
- ・外性器=クリトリス
- ・長さ=2.5cm未満
- ・卵子=有
- ・ホルモン=女性ホルモン
- ・体つき=ふくよか
- ・声=高い
- ・胸=出ている
- ・子どもを産める

DSDs（性分化疾患）とは？

現在「両性具有」や「半陰陽」「男でも女でもない」を意味する用語は、医療現場でも患者家族会支援団体レベルでも忌避されています。

（LGBT運動では「インターセックス」とも呼ばれるが、日本の大多数の患者家族では「セックス」との用語も忌避されている）

「染色体、性腺、もしくは解剖学的に**体の性の発達**が先天的に非典型的である状態」

すなわち「染色体や性腺・内性器、外性器の形状、性ホルモンの産生などが、一般的に**男性ならばこういう体の構造・女性ならばこういう体の構造とされている体の状態**とは、先天的に一部異なる発達をした体の状態」

「男性・女性ならばこういう体の構造であるはず」という**固定観念**

男性

- ・染色体=XY
- ・内性器=精巣
- ・外性器=ペニス
- ・長さ=2.5cm以上
- ・精子=有
- ・テストステロン

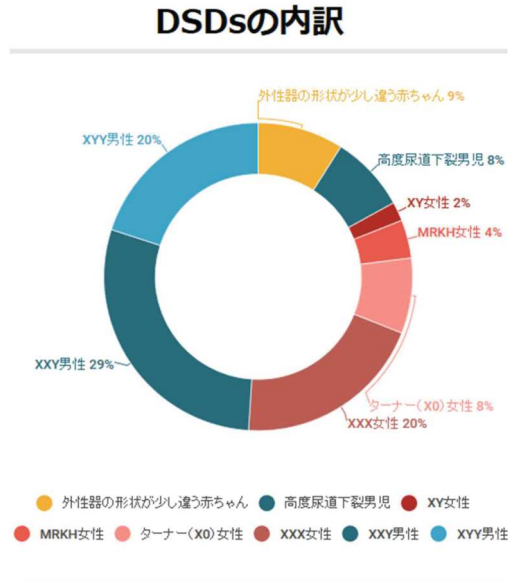
女性

- ・染色体=XX
- ・内性器=卵巣・子宮
- ・外性器=クリトリス
- ・長さ=2.5cm未満
- ・卵子=有
- ・エストロゲン

性自認・性的指向（LGBT）とは異なる

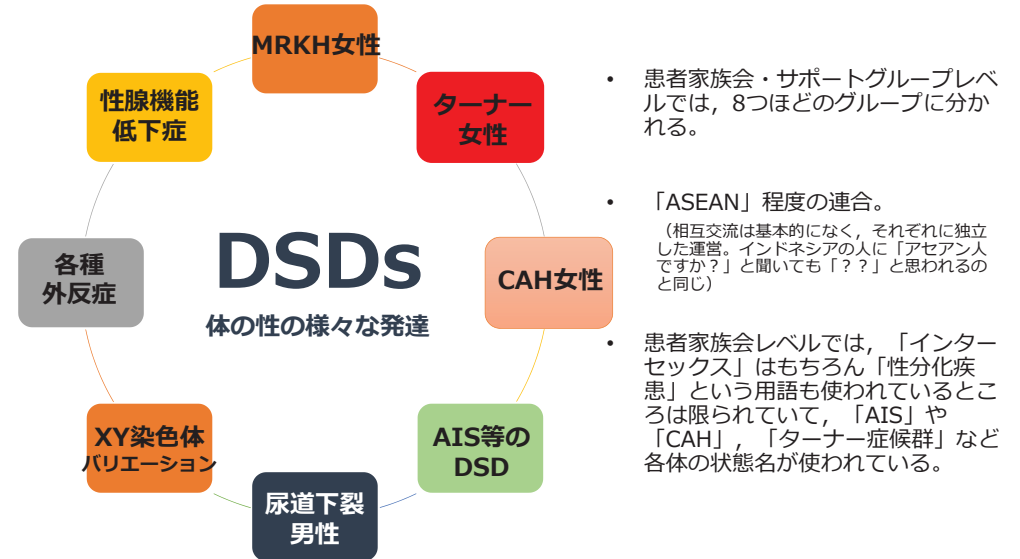
性分化疾患の疾患別の割合（概算）

- 全人口の**約0.5%**。
（日本では約**635,000人**）
- 性別判定に検査が必要な外性器の状態生まれた人は、性分化疾患全体の**9%**。
（軽度・中度尿道下裂男性を除く）



Living with intersex/DSD An exploratory study of the social situation of persons with intersex/DSD The Netherland Institute for Social Research:2014

DSDsは包括用語でしかありません。



先天性副腎皮質過形成（CAH）で生まれた女の子・女性

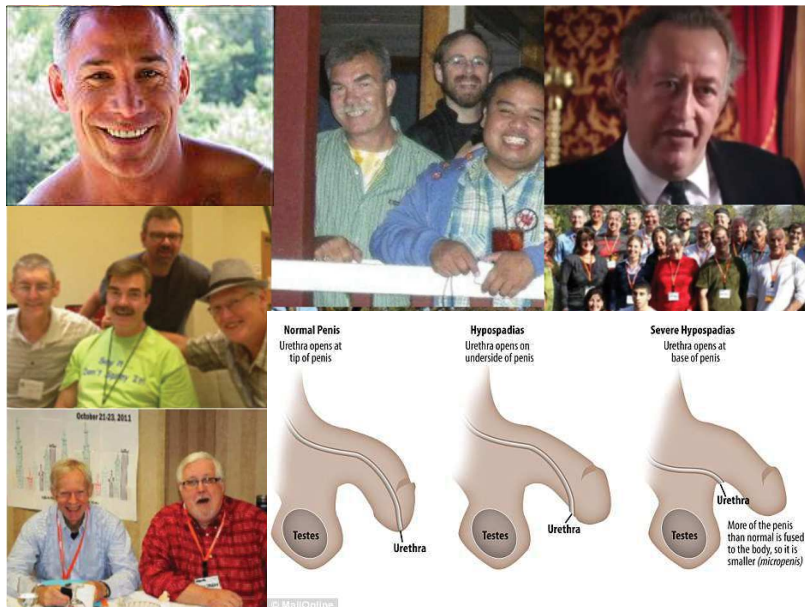
先天的な副腎異常により、性別判定に検査が必要となる外性器の状態で生まれる女の子・女性



出生時に判明する性分化疾患

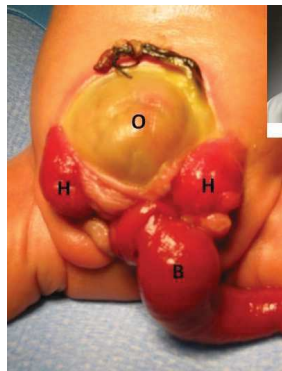
尿道下裂の状態で生まれた男の子・男性

尿道口的位置がペニスの先端ではなく、途中に開いた状態



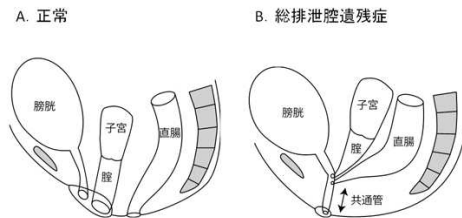
生まれた時に判明するDSDs

総排泄腔外反症



- 膀胱器官や内性器、排泄器官がむき出しになって生まれる状態。
- 緊急の手術が必要となる。
- 見た目では男児か女児かが分からないため、検査が必要になる。

総排泄腔遺残症



- 女兒のみの体の状態。膣口・尿道口・肛門が未分化な総排泄腔のままで生まれてくる。
- 排便や排尿ができず、肛門・尿道・膣を形成する手術が必要となる。

生まれた時に判明するDSDs

性別の判定に検査が必要な外性器の形状で生まれる赤ちゃん

- その他、
混合性性腺異形成（MGD）
部分型アンドロゲン不応症（PAIS）
卵精巢性DSD
5ARD・17β
13qモノソミー
デニス・ドラッシュ症候群

など様々な状態がある。



ほとんどの子どもは、検査の上で性別の判定が可能で、分かりにくい子どもでも将来の性自認が予想できるようになってきており、大部分が判定された性別で違和感なく生活している。

出生時に尿道下裂や陰核の肥大が見られた場合…



必ず性分化疾患中核施設病院にリファーしてください。

（近畿圏では大阪母子医療センター，東海圏ではあいち小児医療センター等）

- 尿道下裂や陰核肥大が見られる場合、性別判定については然るべき一連の検査が必要になります。その裏には、CAH女性や、MGD、PAIS、5ARD・17β、卵精巢性DSD、デニス・ドラッシュ症候群男性、あるいは単なる尿道下裂男性など様々な可能性があり、生命の危険性や将来の予後が異なってきます。
- 特に外陰部の色素沈着が見られる場合は、副腎異常を疑い、リファーと対応が必要です。
- 数例の経験を元にした、断定的な言及は避けてください。
- 半陰陽・両性具有・性別が曖昧・インターセックスなどの用語は避けてください。（できれば「性分化疾患」も ← いずれも「男でも女でもない」というイメージがある）。
- 「外性器の形だけではすぐに性別が分かりにくい赤ちゃんも時々います。その場合は、専門の病院で検査の上で性別判定が可能です」
- LGBTQ等性的マイノリティの皆さんや、「性のグラデーション・多様性」などの話で、逆に不安や混乱が増悪するケースが海外でも多発しています。

思春期前後に判明する性分化疾患

完全型アンドロゲン不応症の女性たち

- かつては、「**睾丸性女性化症**」と呼ばれていた。
- 細胞のアンドロゲン受容体が全く働かないことで、全くの女性に生まれ育つ
- 「あなたは実は男性です」「あなたは男でも女でもありません」「あなたはインターセックス（中性）です」
→「**私は女性です！！**」
- 当事者たちの希望で、「**睾丸性女性化症**」から、「**アンドロゲン不応症**」に名称変更。
- 告知後のほとんどのCAISを持つ女性の苦悩は、**子どもを産めないこと**。
- 告知後の、CAISを持つ女性の**62%は自殺を考え、23%は実際に自殺行動にでている**。



「その頃はまだAISは『**睾丸性女性化症**』と呼ばれていました。私はこの名前は嫌いです。**まるで私が男の成りそこないで、全然女じゃないように聞こえるから**です。」
(ケイティさん)

Androgen Insensitivity Syndrome and Klinefelter's Syndrome Authors: Milton Diamond, PhD and Linda Ann Watson, MD Published in: Child and Adolescent Psychiatric Clinics of North America, 13: 623-640

DSDs（体の性の話）と性自認（gender identity）の混同は…

たとえば、ガンや事故で子宮を失った女性に、

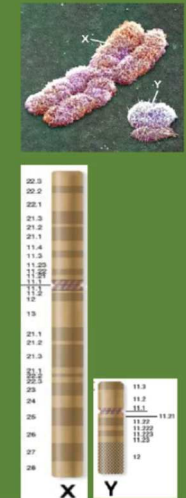
「あなたの体は女性とはもう言えないけれども、あなたが自分を女性だと思っているのだから、女性と認めます」

と言っているようなもの。

- 「男でも女でもない」「中間」ではなく、**女性・男性の体のバリエーション**
- 染色体についても、**染色体<遺伝子**

Y染色体の神話を正す

- 染色体は遺伝子（DNA）を入れるパッケージに過ぎません。
- Y染色体は、基本的にX染色体が「縮んだ」もののなのです。
- Y染色体の重要な遺伝子は、X染色体と同じものです。



MRKH（ロキタンスキー症候群）の女性たち

先天的に膣や子宮が無い状態で生まれる女性

THE TIMES OF INDIA CITY

It's a Life-time Experience

Come... be a part of SHIVRAJ SINGH CHOUHAN Chief Minister Madhya Pradesh

2015年11月3日 18:46

LINEで送る

News Home » City » Bareilly

Born without kidney, uterus, UP teen sets self afire

Mriganik Tiwari | TNN | Dec 5, 2015, 10:19 PM IST

BAREILLY: Unable to bear the trauma of carrying on with the rest of her life without her uterus and a kidney after discovering she did not have them through an ultrasound

に子宮移植への意欲についてどう思が約43%、反対ないが約48%。移植を支持した人62%だった。

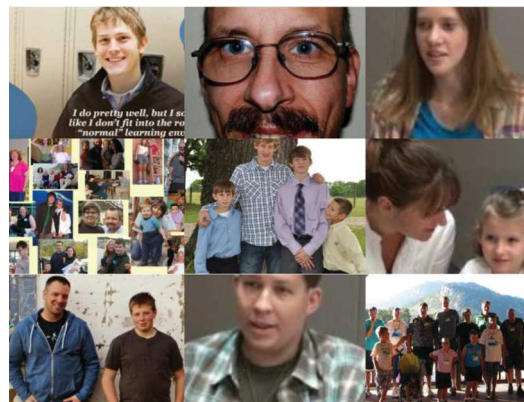
XY染色体が関わる性分化疾患

ターナー症候群の女の子・女性

染色体がXひとつの女の子・女性。そのほとんどが、低身長や二次性徴欠如、不妊の状態にある。



X・Y染色体バリエーション

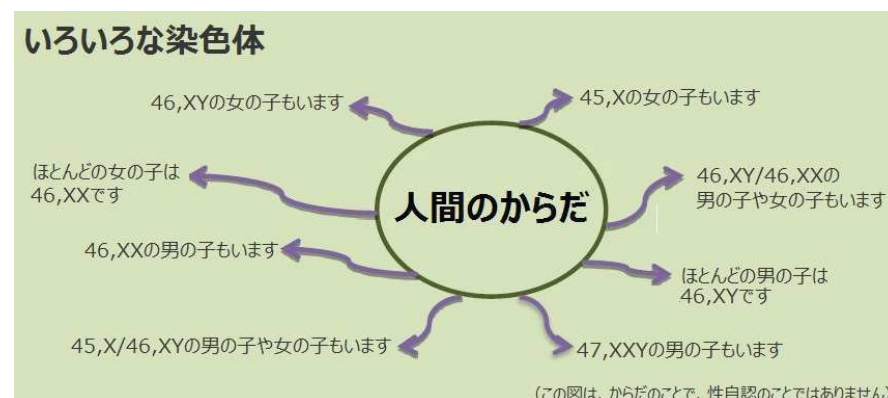


- XXY染色体の男の子・男性
- XYY染色体の男の子・男性
- XXYY染色体の男の子・男性
- XXX染色体の女の子・女性

男性と女性の染色体の違いは、X染色体とY染色体の数の違いではありません。

→ Y染色体上のSRY遺伝子が決定因

DSDsサポートグループで使われている説明図



➡ 「XX・XY以外は、男でも女でもない」
ではないことに注意。

診断自体によるトラウマ



診断を告げられたこと簡単に言えば、**突然炎に包まれて焼死して男と女の区別が分からなくなるくらい焼け焦げて、検視官にこれは男性だと言われたみたい**なものでした。

ステファニーさん（スワイヤー症候群）

母は私がXYであること、精巣があること、そして手術を受けなければならないことを私に話しました。**それはまるで悪夢でした**。病院に行った時と同じ感情に私はまた襲われました。もっとひどくなって。こんなひどい体験はありませんでした。自分が誰なのか、何なのかさえ分からなくなるような。

XY染色体を持つ女性

本当に悪夢でした。自分が誰なのか何なのか分からなくなるような。**私はもう私自身ではなく、なにか気持ち悪い、他の人と違ったものであるように思いました**。

スワイヤー症候群を持つ女性

性分化疾患を持つ人々の多くは、性自認・性的指向の問題と混同されること、男か女どちらでもないように言われることに、二次的トラウマを受けています。



私は男性じゃない。異性装者でもトランスジェンダーでもない。曖昧な第3の性の代表でもない。私はただの女性です。

（完全型アンドロゲン不応症を持つ女性）

この女性のカウンセラーは空想好きで、私がそれに傷つくと、私に怒りを向けていたのです。（この女性は、カウンセラーから、自分を「男でも女でもない」と思うべきだと散々無理強いされました）

（完全型アンドロゲン不応症を持つ女性）

「あなたは自分をどれくらい女性だと思う？男性だと思う？」と訊かれ、私はその場で過呼吸発作を起こしました。私はこの日を絶対忘れられなくなりました…。

PAISを持つ女性

私一人にしてお医者さんが訊いてきたんです。「女性でよかったですか？男だと思ったことはありますか？レズビアンですか？男性と寝たことはありますか？』**とても嫌な思いになりました。**

ローラさん（CAH）

CAHは性分化障害の症状だけがよく取り上げられますが、本質は酵素代謝による代謝障害です。場合によっては命に関わる難病です。**間違った知識により、色眼鏡で見られることが何より辛いです。**

（CAHを持つ女性）

無知と侵襲的な説明・質問による性的トラウマ



彼は平然と言いました。**私の「卵巣」は卵巣ではない。私は本物の女性ではない。私の乳房は乳房じゃない。女性に育てられたから、女性だと思い込んでるだけだ**と。私がまだ若かったら、**この医師のような扱いは私を破壊し尽くしたことでしょ**う。直観的に彼は正しくないと感じました。**だって私は自分が女性であることを自分で知ってたから。**

アーネスティンさん（AIS）

すぐに染色体検査が行われました。結果は、XY染色体のスワイヤー症候群。**この婦人科医は私に、あなたにはペニスがあると言ったのけました。私はとてもショックを受けて、そんな酷いことを何のセンシティブさもなく言っ**てのけることに、心の中でその医者の彼女を殴り倒したくなりました。

シルビアさん（スワイヤー症候群）

まるで私がYだと言ってるように聞こえるわ…。

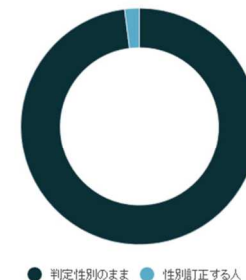
完全型アンドロゲン不応症を持つ女性

DSDsを持つ人の性別訂正の割合（概算）

出生時の性別のままの人が、**97～98%**

- 性別がその場では然るべき検査無しでは分かりにくい状態で生まれた人や、内性器と外性器が不一致の状態を持つ人といった、性自認の問題を生じやすいかもしれないと考えられた状態を持つ人々（**全人口の0.1%の見積もり**）を対象とした様々な調査のメタアナリシス。
- ほとんどは幼少期に性別変更する。
- この調査はマナーのガイドライン下で行われていた性別割り当て（外性器の形のみで割り当て）も含まれているため、**現在の厳密な判定によって、性別変更はもっと少ないと考えられる。**
- 性分化疾患を持つ人の性別変更は、性同一性障害の人の性別変更に至る状況とは質的に異なることも分かっている。

DSDsを持つ人の性別訂正割合



● 判定性別のまま ● 性別訂正する人

判定性別のまま ➡ **97～98%**

DSDsを持つ人々の実際

■**98%**の人は、DSDsを持たない人たちと同じ、一般的な ただの女性・男性の性自認で、むしろ切実に女性・男性。

■性別がしかるべき検査無しでは見た目だけでは分かりにくい状態で生まれた人や、内性器と外性器が不一致の状態を持つ人々（**全人口0.1%の見積もり**）を対象としたドイツ語圏での調査。

■自分のことを「男でも女でもない」とした人は約2%

DSDsを持つ人々の自己認識



● ただの女性・男性 ● 男でも女でもない

ただの女性・男性 ➡ **98%**

Clinical evaluation study of the German network of disorders of sex development (DSD)/ intersexuality: study design, description of the study population, and data quality
Anke Lux, Siegfried Kropf, Eva Kleinemeier, Martina Jürgensen, Ute Thyen, and The DSD Network Working Group

親御さんの罪責感と苦悩



私が悪いんだ。私がちゃんと生んでやれなかった。この子はこれからどうやって生きていくの？

総排泄くう外反症で生まれた男の子のお母さん

実際の体験では、私の一番の恐怖は、子どもを、男の子を失ってしまうかもということだったのです。この喪失感には本当にリアルで、恐怖が私をさいなみました。

高度尿道下裂で生まれた男の子のお母さん

娘は「だったら、私はおなかで赤ちゃんを育てられないの？」と訊いてきました。「そう・・・。そういうことなの…」と私が言うと、当たり前ですが、娘は泣き出し、私は泣いている娘を強く抱きしめるしかありませんでした。私は怖くなりました。この子にどうしてやればいいんだろう！ きっと娘はこの話を受け止めるには、まだまだ早かったんじゃないかって…。」

「私は怖くなりました。行かせられない、もしこの子がお昼間に私が話したことを思い出して、それがどうということなのか分かったらどうしよう…。そうなっても、そこで抱きしめてあげられない。その日は一日涙が止まらず、娘のことを思うと心がとても苦しくなりました。」

PAISを持つ女の子のお母さん

性分化疾患を持つ人々は、あくまで「体」のことで、自分の男性・女性としての尊厳・自尊心を損なわれている人々です。



“君は女性の基準に一致していない。もちろん我々の方でもちょっとした違いはある。だが**君は子宮も完全な膣もない。それは女性とはこうあるはずだ・こうあるべきだという一般的な見解から大きく異なっている。そして君はその基準から外れている。**”それが男性の世界、一般的な人たちの考えよね。

（ロキタンスキー症候群を持つ女性）



全然大丈夫だって言ってくれたとしても、**自分のペニスの見た目を不安に思う時が今でも時々ある**んだ。なんだか疑わしく思ってしまった。他の男性の標準にかなってるかどうかってところは越えられたけど、僕にとっては具体的なことよりも、不安のほうがよっぽど大きな問題なんだ。

（尿道下裂の状態で生まれた男性）

オランダ教育文化科学省 社会文化計画局報告書（2014）

世界で初めての国家機関によるDSDsを持つ人々の実態調査



Leven met intersekse/ps

Een verkennend onderzoek naar de leefsituatie van personen met intersekse/ps

- 「インターセックスという性別などのアイデンティティを持っていることを認められたいというニーズはほとんど無い。それどころか、彼ら彼女らの大部分は、**自分のことをただの男性・ただの女性と見なししてほしい**と思っている」
- インターセックスや性分化疾患といった用語は使いたくないという人がほとんど。
- 「自分が男性もしくは女性であると感じるかどうかさえ、**ほとんど全く疑いを持ったこともない**。むしろ、**他人が自分を完全な男性・完全な女性として見てくれるかどうか不安に思っている**」
- 「**男性と女性の区別について疑問を投げかける必要性は感じていない**」
- 「可視化が大きく進むと、更に社会的偏見の押し付けが強くなる可能性が出てきて、**自分たちでは望みもしないのに、一つの区別された被差別集団として見なされてしまうようになるかもしれない**ということを恐れている」

- 「性分化疾患を持つ人々が出会った偏見には次のようなものがある。**性分化疾患を持つ人々は何か「男性と女性の中間」だ、完全な男性・女性ではない、彼ら彼女らは同性愛だ、トランスジェンダーだ、皆曖昧な性器を持っている。**」

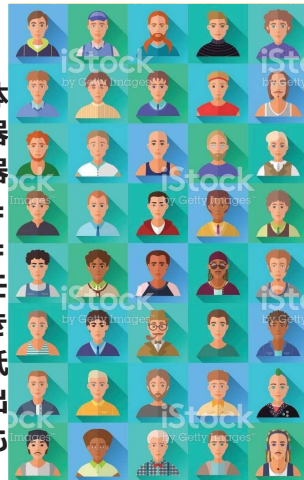


- 「性分化疾患のさらなる可視化と知識が長期的には肯定的な効果を持つというのは一見もっともらしい。しかし、このようなアプローチは同時に、**ネガティブな扱いや社会的偏見の押し付け**といったリスクも伴うのである。」

「DSDs=男でも女でもない」「DSDs=性自認の問題」という誤解には、むしろ「**男性の体・女性の体は、こうでなくてはならない**」という**狭量で強迫的な社会生物学的規範**が裏にある。

男性

- ・染色体
- ・内性器
- ・外性器
- ・長さ＝
- ・精子＝
- ・ホルモ
- ・体つき
- ・声＝低
- ・胸＝出
- ・子ども

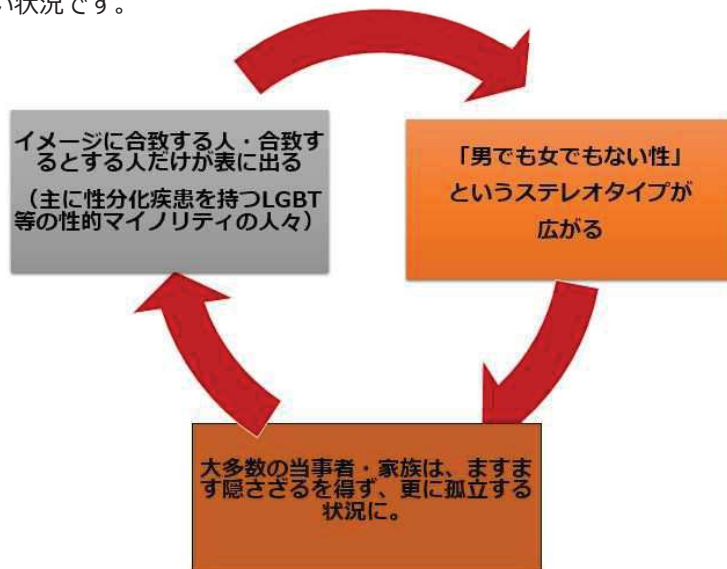


女性

- ・染色体
- ・内性器
- ・外性器
- ・長さ＝
- ・卵子＝
- ・ホルモ
- ・体つき
- ・声＝高
- ・胸＝出
- ・子ども



日本では、LGBTQの人々やマスメディアに見えているのは、性分化疾患でかつSOGIの問題を持つ人々に限られてしまい、更にステレオタイプなイメージが広がり、それによって大多数の当事者・家族はますます隠す方向に行き、孤立せざるを得ない状況です。



LGBTQ等性的マイノリティの人々との実際の関係

性分化疾患を持つ人の大多数は、自分をLGBTQ等「性的マイノリティ」とは思っていない。

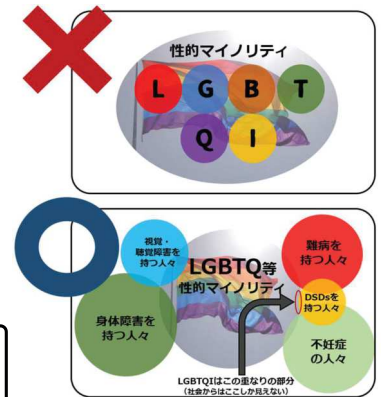
ですがもちろん、性分化疾患を持つ人の中にも、そうでない人々同様、レズビアン (L) ・ゲイ (G) ・バイセクシャル (B) ・ジェンダークィア (Q) など性的マイノリティの人はいます。

ただし、メディアやLGBT団体には、性分化疾患を持ちかつLGBTQ等性的マイノリティである人しか現れないため、一種のカスケード現象とバイアスが生まれることになっています。

※ジェンダークィア：自分を「男でも女でもない」「男・女という性別に囚われない」とする人。日本では「Xジェンダー」と呼ばれている。その大多数は性分化疾患を持たない人々。

オランダ社会文化計画局報告書 (2014)

- ・当事者のほとんどが、**自分たちはLGBTなど性的マイノリティの人たちとは完全に異なる集団であるのに、混同されることが多いため、彼らとは距離をとることを望んでいる。**
- ・世間から性自認・性的指向 (SOGI) という眼で見られることを恐れてさえる
- ・性自認が曖昧な人 (ジェンダークィア) は、LGBTの人たちとの繋がりをいくらかは感じているが、**こういう人の数は限られている**



LGBTQ運動や人権運動の分野等では、LGBTに「インターセックス (性分化疾患)」が加えられる場合がありますが (LGBTI)、**実際の状況**としては、確かに性分化疾患を持つ人々の中にもLGBTQ等の性的マイノリティの人々がいますが、それは例えば、疾患・障害を持つ人達や在日外国人の人達にもLGBTQ等性的マイノリティの人々がいることと同じです。

医学教育に対する希望

- ・性分化疾患の専門ではない医師から、患者家族を混乱させるような言及がされるケース。(第5回DSDセミナーin大阪)
- ・欧米では、LGBTQ等の性的マイノリティの皆さんの、性分化疾患に対する誤解や偏見が医療の現場にも広がり、多くの性分化疾患患者家族が心深く傷つくような、誤った知識を伝えられたり、侵襲的な質問をされるケースが多発。(日本でもこれから増える可能性)

医学教育においても、LGBTQ等性的マイノリティの人々についての教育では、性分化疾患については、正確で、患者家族を傷つけない情報のあり方を考慮いただきたく思います。また、出生時や思春期前後に性分化疾患の兆候が見られる場合は、憶測や誤解に基づく言及を避け、必ず性分化疾患専門の中核医療施設 (かつ多職種チーム医療体制が整っているところ) へのリファールの徹底を教育いただくようお願い致します。

日本小児内分泌学会 性分化・副腎疾患委員会「性分化疾患診療中核施設・準中核施設一覧」<http://jspe.umin.jp/medical/research.html>

私一人にしてお医者さんが訊いてきたんです。「**女性でよかったですか？男だと思っことはありますか？レズビアンですか？男性と寝たことはありますか？**」**とても嫌な思いになりました。**

ローラさん (CAH)

CAHは性分化障害の症状だけがよく取り上げられますが、本質は酵素代謝による代謝障害です。場合によっては命に関わる難病です。**間違った知識により、色眼鏡で見られることが何より辛いです。**

(CAHを持つ女性)

代理の医師が「男の子に育てるか女の子に育てるかどう思ってるんですか！？」と言ってきて…。中耳炎の診察に行っただけなのに…。

(AISを持つ女の子のお母さん)

自身がつらく思う自分の外性器の状態を、他人に勝手に話されてしまうことによる、コントロール感の喪失・恐怖と、二次的トラウマ。



「自尊心を傷つけられて怖かった。他人が私について考えることを、私自身には止められない状況だった。私自身のことなのに」

DSDを疑われた女性オリンピック選手

- ・ 性同一性障害・同性愛の子供の場合は、幼少期からの自らのアイデンティティや希望、愛の形を、叶え、認める重要性。
- ・ しかし性分化疾患を持つ子供の場合、思春期前後に判明、もしくは説明が行われることが多く、**多くのケースにおいて、それはトラウマ体験になっている**。しかも外性器の形状に関わる性分化疾患の場合、**その子の外性器という極めて私的でセンシティブな領域の話**になるため、外部からの不用意な介入は、**二次的トラウマを生む可能性が高い**。

性分化疾患を持つ人の61%が臨床的に顕著な精神的苦痛を持ち、自殺念慮率は45%。思春期に判明するCAIS女性では、62%の自殺念慮、23%が自殺未遂に至っている。

Androgen Insensitivity Syndrome and Klinefelter's Syndrome Authors: Milton Diamond, PhD and Linda Ann Watson, Med Published in: Child and Adolescent Psychiatric Clinics of North America, 13: 623-640 Coping With Diverse Sex Development: Treatment Experiences and Psychosocial Support During Childhood and Adolescence and Adult Well-Being. J Pediatr Psychol. 2016 Jul 24;Authors: Schweizer K, Brunner F, Gedrose B, Handford C, Richter-Appelt H

キャスター・セメンヤさん



私の存在に関わる最も深く私的な領域に、不当に土足で侵入されました。それは私の選手としての権利だけでなく、私の尊厳とプライバシーの権利を含む、人間としての根本的な権利を犯すものでした。

何を大切にするのか？

「多様性により理解や共感がはぐくまれ、多彩な豊かさを生み出すというのだ。しかし、この種の考え方は、実際に子供の立場で考えてみると、私には疑問だ。**子供を社会の進歩のために、生け贄として差し出しているように思えるのだ。私は私の子供を、そんな大きな戦いに参加させることにはためらいを覚える。**」

(医療人類学者アリス・ドレガー著・針間克己訳『私たちの仲間』)



「ジェンダー論を担当するある人はこう回答した。『私はインターセックスの問題をジェンダー（性別）の問題に関連させるようにしています。**その方が簡単なんです。セックス（そしてジェンダー）は固定化されたものであるという学生の思い込み、つまり性別二元論を疑ってもらうには**』。これは**インターセックスの状態を持つ人々の自己目的化であり、インターセックスの状態を持つ人々が送る人生のリアリティへの認識や注意深いまなざしがこのように欠如していると、インターセックスの状態を持つ人々を不用意に傷つけ、更に不可視化や疎外化を促すことになってしまうのだ。**」

(エミ・コヤマ『社会構築主義から社会的公平へ』)

キャスター・セメンヤさん



自分の尊厳が傷つけられて怖かった。他人が私について考えることを、私には止められないという状況だった。私自身のことのはずなのに…。

人間の「モノ化」 (objectification)



スライド 8

が促されるということがあります。

この図（スライド7）が示しているのは、出生時の性器の外見からすると女性化している場合でも、胎生



誰も私の目を見なかった。「大丈夫？」って私に言ってくれる研修医は誰もいなかったわ。ひとりもね。

シーツを取ったら今度は私以外見なくなりました。こう思ったの。「この人達がやってることを私ができたなら。

この人達のように、体から心を引き剥がせたら、これは終わるんだって。

（ジャネットさん：CAH）

何を大切にするのか？



臨床心理学者
河合隼雄さん

性に関わる課題を持つ子どもがいると、周りは真っ二つに分かれるようなことが起きる。そういう問題が出てくると自体に腹を立てて排除したいと思う人。もう一方は秩序やルールを変えてこそ社会は進歩するのだと思い込んでいて支持をしようとする人。

しかし何より大事なものは、その子の人生、その子の幸福を考えることだ。どうすべきか、しないべきかではなく、その子本人の幸福ということをとことん考えるのです。

そうすれば周りは、自分たちがその子の幸福を放っておいて、自分たちの人生観で喧嘩していることに気づいていき、その子の生き方ということに収斂していきます。